

# あけまして おめでとうござい ます

神埼市長 松本茂幸



市民の皆さまには、ご家族おそろいで希望に満ちた新春をお迎えることとお喜び申し上げます。

さて、一昨年の米国大統領ドナルド・トランプ氏の誕生による米国の対外交は、国際社会の中で各国の在り様を大きく変

化させる情勢が多く見受けられ、我が国、日本においても外交は変化を余儀なくさせられているように感じられます。殊に、隣国である中国、韓国、北朝鮮においては、尖閣諸島問題、慰安婦問題などと重なり、今後の展開が心配に思われます。特に、北朝鮮の核弾頭開発に絡んだ成り行きには目が離せないものです。また、経済の課題もより複雑に絡まり、海外の情勢に対し、多角的対応が求められております。

地球規模での環境が大きく変化しているとの科学者の指摘がなされる中で、CO<sub>2</sub>問題が国際的にクローズアップされ、世界各地で大規模災害が多発し、また地震などの自然災害も心配です。

昨年の北部九州、福岡県朝倉市や東峰村での豪雨による水害、土砂災害、さらに、流木災害は未曾有の被害をもたらしました。改めて被災された方々へのお悔やみとお見舞いを申

し上げます。先の熊本県で発生した地震災害も甚大な被害をもたらし、今日まだ避難生活をされる多くの方がおられます。国では、東日本の地震津波災害をはじめ、多くの自然災害の教訓からして、国土強靱化政策に積極的に取り組み、実現が図られています。その実現は程遠き感じがいたします。それでも、第一步を踏み出すことが大切です。

一方、国内では、昨年実施された衆議院議員選挙において自民党の圧倒的勝利があり、安倍内閣の継続、アベノミクスの成就による経済活性化、働き方改革による国民の所得増への期待感が実現され、さらなる子育て支援の充実、高齢者の幸福の実現政策などが図られることを信じていたいと思います。

神埼市は、合併して早や、12周年を迎えます。市民の皆さまお一人おひとりにとって、神埼市民としての意識は如何でしょうか。合併後、一貫して求めてきました市民の一体性の実現はなかなか難しいものだと実感しています。

すでにご存知のことですが、今年（4月1日以降）は、第2次神埼市総合計画がスタートし、神埼市の新たなまちづくりが始まります。この計画策定の準備作業は、昨年から職員はもとより市議会また関係ある方々や多くの市民の方々の参画を求め、審議会、市民まちづくりアンケート、市民ワーク

シヨップなどを数多く開催し、計画案作成に努力していただききました。最終の取りまとめまでには、まだ少々のを要すると考えております。

今回は、これまでになく人口減少期のまちづくりが前提です。合併当時は人口33,890人、世帯数10,754世帯でしたが、11年後は31,930人、11,627世帯となり、1,960人の減少（マイナス5・8%）、873世帯の増加（プラス8・1%）と推移しました。このことは、核家族化の進展を示しています（合併当時の家族数の平均3・2人が2・8人に）。

計画作成には、立案の大きな要素である人口、世帯数などの変化をもとに、神崎市を取り巻く社会情勢の変化など広く要因を考慮した今後の10年間の見通しによるまちづくりが求められます。ただ、市全体の平均を見て一律に進めるのではなく、それぞれの地区、集落の実態を踏まえたまちづくりも心がけなければなりません。とにかく、行政だけで進めることは不可能です。行政と市民とが共同で進める協働のまちづくりでなくては、何一つ進めることができません。今の社会実情を、市民の皆さんに理解していただく意識の変革をお願いするとともに、シツカリとまちづくりに取り組んでまいります。

「市長と語る会」で各地区、集落の動向をお知らせいたしました事項等を踏まえ、地区づくりの提案と地区における地区づくりをシツカリとお願いいたします。

今日、進めております大型事業について

○神崎市庁舎は、29年度内に工事発注を行い、31年度に完成し、市の事務を32年度には新庁舎に移す予定です。

○神崎町保健センターは、30年1月下旬に事務所機能を旧JA会館2階に移転し、事務事業を始める予定です。

○神崎情報館は、現在の神崎建設業会館を改修し、32年に新装開設予定です。

○脊振町複合施設は、32年度までに建設完了し、同年度内に施設の利用開始をする予定です。

○神崎市と吉野ヶ里町との共同建設の葬祭公園は、32年の半ば頃の施設供用開始を予定しています。

これらの事業の他にも推進するべき事務事業が山積しておりますが、いずれも、市民の皆さまにとつての健康、福祉、生産、生活に関わる行政サービスであり、猶予あるものではなく、適正に適宜行わなければならないものばかりです。

先に述べましたように、今年、第1次神崎市総合計画から第2次神崎市総合計画に発展的展開する年であります。いよいよ「生き生きとした笑顔のある『元気 かんざき』」のまちづくりを目指し、職員一同、心を一つにして積極的に取り組んでいく覚悟です。つきましては、市民の皆さまにはまちづくり、行政運営に積極的に参画していただけることを切に願います。

終わりに、今年一年が神崎市民にとって意義ある年となることを願うとともに、皆さまのご健勝、ご多幸をご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

平成30年元旦



## 新年のご挨拶



神崎市議会

議長 廣瀨 恒明

新年あけましておめでとございます。市民の皆さまにおかれましては、ご家族お揃いで希望に満ちた新年をお迎えのことと存じます。年頭にあたり、神崎市議会を代表しまして、新年のご挨拶をさせていただきます。

昨年は、7月5日から6日にかけて、「平成29年7月九州北部豪雨」が発生し、特に福岡県および大分県においては河川の氾濫や土石流の発生により37人の方が犠牲となられ、今なお4人の方が行方不明となっております。発達した雨雲が帯状に連なる「線状降水帯」が発生し記録的な大雨となりました。犠牲となられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに一刻も早く復旧、復興されますことをお祈り申し上げます。わが神崎市もいつ大雨が降るかわかりません。日頃から「自助」「共助」「公助」が大切である

ことを痛感した年となりました。さて、全国的に進む人口減少や少子高齢化により、社会保障や介護、空き家対策など様々な問題に直面しています。

各自治体ではそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な施策を実施し、問題解決に取り組んでおります。神崎市においては、「第2次神崎市総合計画」でこれらの問題に対処すべき方針や計画を立て、平成30年度から市民生活にかかる各種施策に取り組んでいくこととなります。

いよいよ本年は新庁舎の建設をはじめ、葬祭公園整備、脊振町複合施設建設、王仁博士顕彰公園整備などが目に見えてまいります。

市議会としては、市民の安心安全のまちづくりを念頭に、皆さま方の共通の利益を最優先として、職責を全うする所存であります。

本年は4月15日に市議会議員選挙が予定されております。神崎市の更なる発展と市民の皆さまの幸福のため議員一同、心新たに努力していく所存であります。

平成30年が幸多き年となりますよう祈念いたしまして年頭の挨拶とさせていただきます。

## 新年のご挨拶



神崎市教育委員会

教育長 田代 高規

皆さまには、すこやかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年は、神崎市が誕生して12周年となります。この間、世の中の進展は目覚ましく、グローバル化、急速な情報化や技術革新により、将来の予測が難しい時代となりました。しかし、どんな世の中になろうとも、次代を背負っていく子どもたちには、たくましく生き抜くための基礎学力、強い心や体を育てていかなければなりません。

教育委員会としましては、ICT活用や陰山方式による徹底反復学習などにより、国民として必要とされる学力をしっかりと身に付けさせていきます。また、新たに教科となる道徳教育を充実させるとともに、体育や部活動にも力を入れて

いきたいと思えます。

さらに、グローバル化に対応するため、英語教育や国際交流事業、神崎ふるさと学習や佐賀県主催「肥前さが幕末維新博覧会」への参加などを通じて、郷土を愛し郷土を誇りに思う心を醸成していきたいと思えます。

少子高齢化、核家族化の波は神崎市にも押し寄せ、集落の人と人の結び付きが希薄になってまいりました。青少年健全育成の立場から、地区懇談会を継続発展させ、また、「家読」の拡充により、読書を通じて地域や家族の絆を深めていければと考えているところです。

社会教育面においては、いつでも、誰でも学べる生涯学習の場を提供していきます。公民館講座やいきいき大学について、内容の更なる充実を図っていきたいと思えます。また、学齢期の子どもを持つ保護者の方が安心して仕事に従事できるように、「放課後児童クラブ」の施設や指導者の充実にも配慮してまいりたいと思えます。

皆さまの、今年一年の御多幸を心からお祈りして、ご挨拶いたします。

# 今年の抱負

## 総務企画部

本年は、平成30年度以降10年間のまちづくりの指針となる「第2次神崎市総合計画」を策定します。計画をもとに、さらなる発展と活性化につながる施策を展開します。

人口減少への取り組みとして、市外からの移住者呼び込み、市内在住者の定住を図るため、定住促進対策事業の更なる推進に努めます。

また、平成32年完成予定の新庁舎建設に向けて実施設計がましまりましたので、今年、施工業者の選定を進め、工事に着手する予定です。脊振町複合施設建設事業では、実施設計を取りまとめ、千代田庁舎の活用策についても地域の活性化に資するよう検討を進めます。

葬祭公園整備事業は、平成32年度の供用開始に向けて、昨年6月に策定された神崎市・吉野ヶ里町葬祭公園整備基本計画に基づき、事業を推進します。

平成30年は明治維新150年の年で、県の「肥前さが幕末維新博覧会」と連携して、近代西洋医学の先駆者である伊東玄朴をはじめ、当時我が国の各分野

で活躍された市出身者の偉業を情報発信します。

消防・交通・防災面では、安全安心のまちづくりのため、市民の方へ最新情報の提供ができる施策に取り組み、消防団組織の充実や交通安全運動、防災訓練などを実施し、あらゆる災害に強いまちづくりに努めます。

財政面では、ますます堅実な財政運営が求められることから、新総合計画に基づき、施策や予算の選択と集中を図りつつ、健全な財政運営に努めます。



神崎菱焼酎金賞受賞

## 市民福祉部

総合窓口は、的確にお客さまの要望を把握し、明るく誠実な対応に努めます。

マイナンバー制度は、各種申請の添付書類の省略など、順次情報の連携が図られ、利便性が向上しています。ぜひ、カードの作成をお願いします。

健康医療は、「自分の健康は、自分で守り、つくる」を基本として、定期健康診査・食事・運動の推進を図ります。

また、国保は、平成30年4月から県が財政運営の主体となり、市は資格管理・保険税などを担うこととなります。

環境は、佐賀東部環境組合を設立し、平成36年稼働に向けごみ処理施設整備を進めます。

社会福祉では、子育て支援の更なる強化を図るため、保育事業の充実とともに産前産後ヘルパー事業やファミリーサポートセンター事業など多彩な事業に取り組みます。

また、生活に困っている家庭には、子どもの学習と居場所づくりとして「子どもの学習支援事業」を充実させるなど幅の広い生活支援事業を展開します。

高齢者福祉の分野では、「地域包括ケアシステム」を推進し、認知症予防や権利擁護、介護相談など「健康」と「長寿」が強く結びつくような介護予防事業を進めます。

障がい者福祉では、地域生活支援事業や就労支援を強化継続し、生まれた町で地域の皆さんと「共生」「協働」できる地域づくりを目指して、福祉サービスの浸透に取り組みます。



地区での介護予防教室

## 産業建設部

農林水産部門では、農林水産業の振興のため、中山間地域では交付金を活用した集落の維持強化や鳥獣被害対策を推進し、平野部のクリークでは国営・県営事業等を活用して機能維持の回復を図ります。また、市有林の間伐や林道の維持管理等の森林整備を促進し、災害に強い森林づくりに努めます。

商工観光部門では、昨年の南部工業団地への企業進出に続き、今年も新たな雇用機会の創出や市内商工業者との連携を図ります。また、今年完成する「王仁博士顕彰公園」を活用し、神崎市の魅力を広く国内外へ発信し地域の活性化と経済への波及効果を目指します。

建設部門では、地域経済の活性化と生活環境の向上のため、



南部工業団地

縦断道路などのインフラ整備や公共土木施設などの老朽化対策に長期的に取り組みます。さらに、城原川ダムの建設促進を引き続き国に働きかけていきます。

下水道部門では、公共下水道の浄化センターの増設工事に着手し、浄化槽整備と快適な生活環境づくり、良質な水環境づくりに取り組みます。また、安定経営を目指して平成32年度の公営企業会計の導入に向けた準備作業を推進します。

今後も本市の発展と安全・安心の確保、住環境の向上のため、積極的に取り組みます。

市民福祉の向上のため、職員一丸となって前進していきます。市民の皆さまの温かいご理解、ご協力をお願いいたします。